

播州 舞子濱之圖

古今に傳へたる待合のい一枚より別紙有



利邦

深き海に舟をこら

あふきの船人

鏡人こらにほせ

四方

まね

海向くさつら

西隈

後の月さうね

町戸くさつら

共角

十ヶ蓋

山田村

角すあう

かろり

舞子濱とよ播の絶をいふ世ありけ各軒巡らるは諸君の足をとる
 夫帆必帆道崎の旅かたうをせぬとせ近の顔と女たらんわ
 朝暮の香も見多にいつる下は名酒名肴隣家育珍茶の名産茶の焼

方田亭賣茶の宅と舞子濱方田

板元舞子濱方田

播州 舞子濱之圖

古今より名り待たるる一技あり別紙有



うら原にもまきおろ 利邦

深きくちのくちも ちのちのちのちの人

鏡人ふらにほせせ 四方 まれ

よまじき海邊有

海向くまのり 西陸

浪の月えうね

鳴戸くち雷鳴と 其角

十 丹蓋

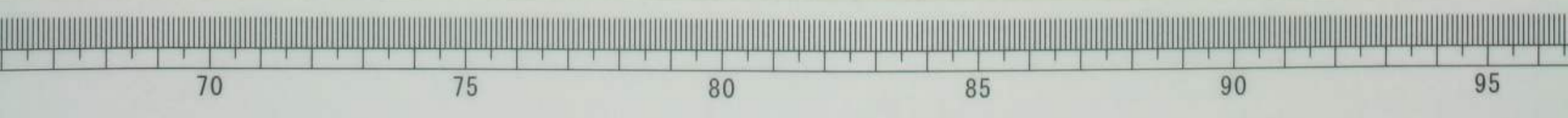
浪すあうー 七七

角ゆりくちい かくろひり

大ヶ谷

人九山

山田村



舞子溪とよ播の絶をいさむ世ありけ名軒巡りては諸君子の足をとらる
 去帆小帆通路の旅人がつぎとぬぎに於て近の顔より女をらんを如くして多通るる道
 朝暮の香を見りにつく河下は名酒名肴隣家も有珍茶の為産出砂の焼くもの

方田亭賣茶の皂と阿鼻方田

板元舞子溪方田

